

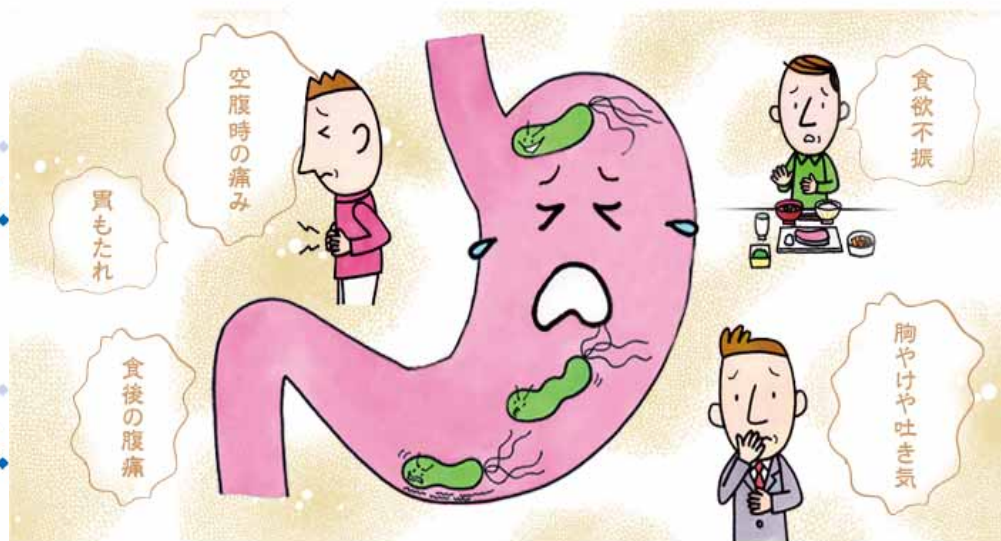


# ピロリ菌と除菌治療のお話



0

ただの胃炎？ピロリ菌が原因かもしれませんよ。

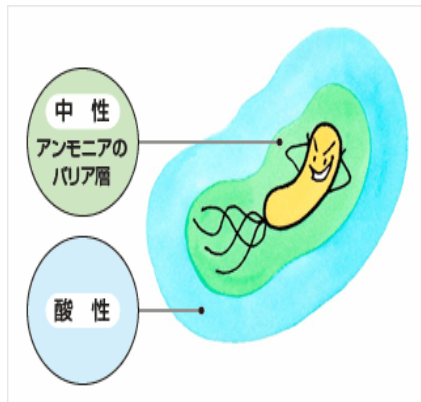


## 今日のお話

- 1.ピロリ菌について
- 2.なぜピロリ菌除菌治療が必要なのか
- 3.除菌治療について



## ピロリ菌って何者？

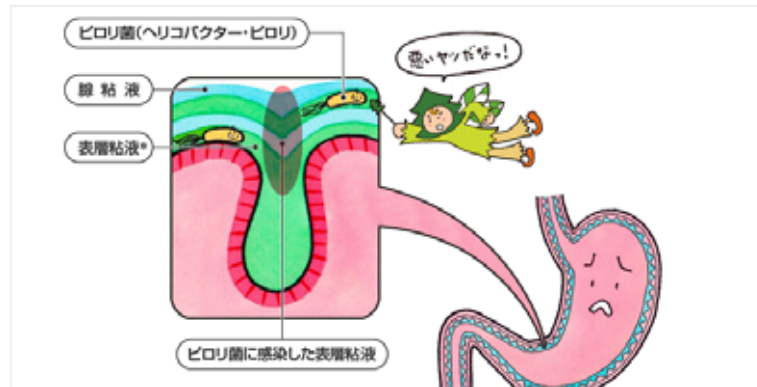


- ◆ピロリ菌は**ウレアーゼ**をだして、胃の中の尿素を分解してアンモニア(アルカリ性)のバリアを作り、胃酸から身を守っています。

- 胃の中には、食べ物の消化を助け、食べ物の腐敗を防ぐために、胃液が分泌されています。胃液には、金属でも溶かしてしまう強い酸(塩酸)が含まれているため、胃の中は強い酸性(pH1~2)で、通常の菌は生息できません。ピロリ菌が活動するのに最適なpHは6~7で、4以下では、ピロリ菌は生きられません。それなのに、なぜピロリ菌は胃の中で生きていけるのでしょうか？秘密はピロリ菌がだしている「**ウレアーゼ**」という酵素にあります。この酵素は胃の中の尿素を分解してアンモニアを作りだします。アンモニアはアルカリ性なので、ピロリ菌のまわりが中和され、胃の中でも生き延びることができるのです

## ピロリ菌について

- ピロリ菌は強い酸性の胃酸から胃を守るはたらきがある表層粘膜の中で動きまわるので、胃酸攻撃にあわず生きることができます。



子供の頃に感染し、一度感染すると多くの場合、除菌しない限り胃の中に棲みつづけます。ピロリ菌に感染すると、炎症が起こりますが、この時点では、症状のない人がほとんどです。

## ピロリ菌の感染原因

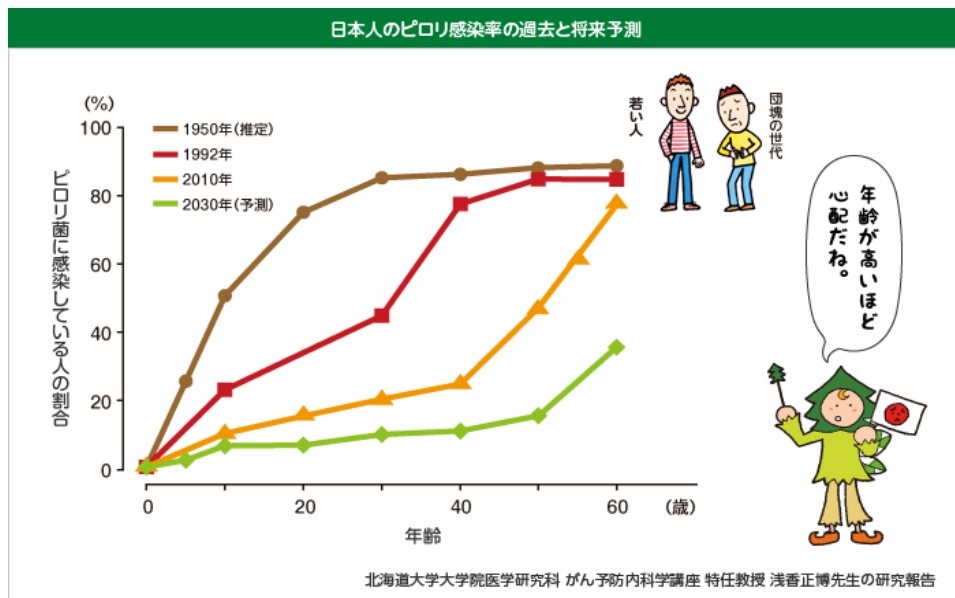
- なぜ、ピロリ菌に感染したの？  
感染経路は充分わかりませんが、2つの原因が考えられています。



5

ピロリ菌はどのような経路で、いつ人の胃に入り込むのでしょうか。  
じつは、どのような感染経路であるかはまだはっきりわかりません。  
ただ、マーシャルの人体実験(「[ピロリ菌の発見](#)」参照)で証明されたように、口から  
入れば感染することは間違いなさそうです。大部分は飲み水や食べ物を通じて、人  
の口から体内に入ると考えられています。  
それでは、生水を飲んだり、キスでピロリ菌に感染してしまうのでしょうか？  
上下水道の完備など生活環境が整備された現代日本では、生水を飲んでピロリ菌  
に感染することはありません。また、夫婦間や恋人間でのキス、またコップの回し飲  
みなどの日常生活ではピロリ菌は感染しないと考えられています。  
ピロリ菌は、ほとんどが5歳以下の幼児期に感染すると言われています。幼児期の  
胃の中は酸性が弱く、ピロリ菌が生きのびやすいためです。そのため最近では母か  
ら子へなどの家庭内感染が疑われていますので、ピロリ菌に感染している大人から  
小さい子どもへの食べ物の口移しなどには注意が必要です。

# 日本人のピロリ菌感染率



わが国では、上下水道が十分完備されていなかった戦後の時代に生まれ育った団塊の世代以前の人々のピロリ菌感染率は約80%前後と高いのですが、衛生状態のよい環境で育った若い世代の感染率は年々低くなり、10代、20代では欧米とほとんどかわらなくなってきました。

50代以上の方は飲料水が主、50代未満の方は口口感染が主とされています。

1964年に東京オリンピックがありました。その時期に上下水道が整備されたので飲料水での感染は激減しました。

また、ピロリ菌感染を予防する方法は、よくわかっていません。親から子へのたべもの口移しには注意が必要でしょう。

上下水道が完備され衛生環境が整った現代ではピロリ菌の感染率は著しく低下しており、予防についてあまり神経質にならなくてもよいでしょう

## なぜ除菌治療が必要ですか？

- ピロリ菌に感染すると、潰瘍や胃癌が起こりやすくなります。しかし、感染したほとんどの人に胃炎が起こります。
- ピロリ菌が**胃がんの主因**であることが明らかになり研究が進んだ結果、2013年2月21日からは「**ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎**」が新たに保険適用となり、特定の疾患に罹患していなくても、内視鏡検査でピロリ菌の感染が確認された場合誰でも除菌のための保険治療を受けられるようになりました。



**胃がん撲滅のために治療が必要です。**

7

ピロリ菌に感染すると、潰瘍や胃癌が起こりやすくなります。しかし、感染したほとんどの人に胃炎が起こります。除菌しない限り、ピロリ菌は胃の中にすみ続け慢性的炎症が続き、胃の粘膜を防御する力が弱まり、ストレスや塩分の多い食事、発癌物質などの攻撃を受けやすい無防備な状態となります

ピロリ菌が**胃がんの主因**であることが明らかになり研究が進んだ結果、2月21日からは「**ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎**」が新たに保険適用となり、それまでは胃潰瘍や胃潰瘍癒痕などの病名がついていないと除菌治療ができませんでしたが、内視鏡検査でピロリ菌の感染が確認された場合誰でも除菌のための保険治療を受けられるようになりました。

**胃がん撲滅のために治療が必要です。**



## 除菌治療を受けるには

1. 保険で除菌を受けるには**胃内視鏡検査**が必要です。
2. 胃内視鏡検査で胃炎の診断があった場合に**ピロリ菌の確認検査**を行います。



## 除菌治療を受けるには

1. 保険で除菌を受けるには**胃カメラ検査**が必要です。
2. **ピロリ菌の確認検査**が必要です。

胃がんになるリスクを減らすためには、現在の自分の胃の状況を知ることが重要です。胃炎を起こす原因であるピロリ菌がいるかどうかを調べ、陽性なら胃内視鏡検査を受けてください。最近胃カメラを受けている人は新たに胃カメラを受ける必要はありません。

## ピロリ菌の検査

- 1)尿素呼気試験法

診断薬を服用し、服用前後の呼気を集めて診断します。  
最も精度の高い診断法です。  
簡単に行える方法で、感染診断前と除菌療法後4週以降の除菌判定検査に推奨されています。



- 2)抗体法

血液中や尿中などに存在するこの抗体の有無を調べる方法です。  
血液や尿などを用いて、その抗体を測定する方法です。

ABC検診で抗体検査ができます → 友の会会員は自己負担1000円

- 3)抗原法

糞便中のピロリ菌の抗原の有無を調べる方法です。

# ピロリ菌の検査

## 内視鏡を使う方法

内視鏡検査では、胃炎や潰瘍などの病気があるかどうかを直接観察して調べますが、それと同時に、胃粘膜を少し採取しそれを使って検査する方法です。

- 1)培養法

胃の粘膜を採取してすりつぶし、それをピロリ菌の発育環境下で5～7日培養して判定します。

- 2)迅速ウレアーゼ法

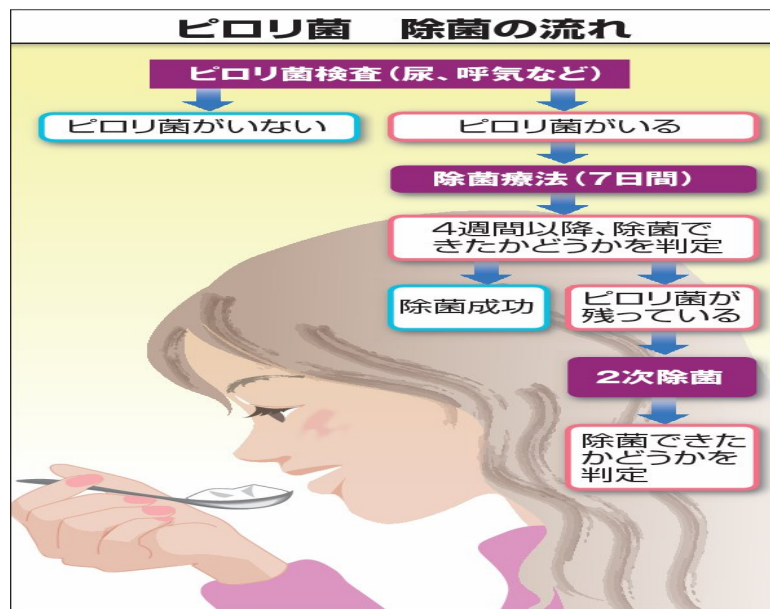
ピロリ菌が持っているウレアーゼという、尿素を分解する酵素の活性を利用して調べる方法です。



- 3)組織鏡検法

胃の粘膜の組織標本に特殊な染色をしてピロリ菌を顕微鏡で探す組織診断方法です。

## ピロリ菌治療の流れ



### 治療の流れ

まずピロリ菌はいるかどうか検査をします。

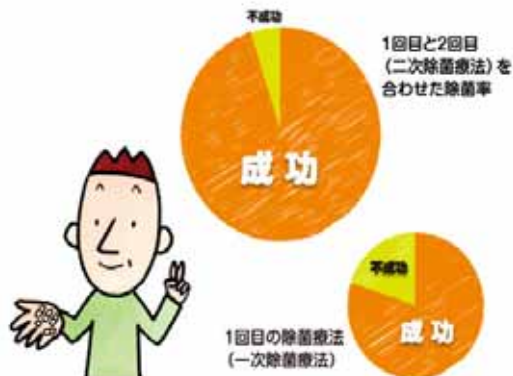
陽性の場合除菌治療が必要です。1週間お薬を朝・夕飲みます。

お薬を飲んで4週間空けて除菌治療が成功したかどうか確認が必要です。

確認は先ほど説明した尿素呼気試験でできます。結果まだピロリ菌が残っていますと言われたらお薬を変えてまた1週間薬を飲みます。4週間以上空けて再度確認の検査をし

ます。

## 除菌治療の成功率



- ピロリ菌の除菌療法は、2種類の「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」合計3剤を服用します。1日2回、7日間服用する治療法です。正しくお薬を服用すれば除菌療法は約80%の確率で成功します。除菌療法の後、もとの病気の治療を行います。(除菌療法の前にもとの病気の治療を行う場合もあります。)

すべての治療が終了した後、4週間以上経過してから、ピロリ菌を除菌できたかどうかの検査を行います。この検査でピロリ菌が残っていなければ、除菌成功です。

### 除菌治療の成功率

ピロリ菌の除菌療法は、2種類の「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」合計3剤を服用します。1日2回、7日間服用する治療法です。正しくお薬を服用すれば除菌療法は約

80%の確率で成功します。除菌療法の後、もとの病気の治療を行います。(除菌療法の前にもとの病気の治療を行う場合もあります。)

治療が終了した後、4週間以上経過してから、ピロリ菌を除菌できたかどうかの検査を行います。この検査でピロリ菌が残っていなければ、除菌成功です。

1回目の治療で除菌できなかった人もお薬を変えて2次除菌を行います。この場合も成功率は80%です。

2次除菌まで行えばほとんどの人が除菌できるということです。

1度除菌すると大人になってからはなかなか感染しないので胃がんのなるリスクは下がります。

## 除菌療法の成功率と成功のコツ



除菌治療中は禁酒・禁煙



### 除菌療法の成功率と成功のコツ

まず1日2回忘れないように薬を飲むこと これが一番大切なことです。

お薬を飲み忘れたり、勝手に飲むのを中止すると除菌がうまくいかないだけでなく、薬に耐性ができ薬が効きにくくなってしまいます。

次に大切なことは治療中は禁酒・禁煙です。

禁煙がきついとよく言われますが失敗する人の多くは禁煙できていないんです。

## 除菌治療の副作用

除菌療法を始めると、軟便、下痢、味覚異常などの副作用がおこる場合があります。



## 除菌治療中に副作用かなと思ったら



発熱

下痢

発疹やかゆみ



軟便

味覚異常

- 発熱、腹痛をともなう下痢、便に血が混ざっている場合、あるいは発疹やかゆみがあった場合

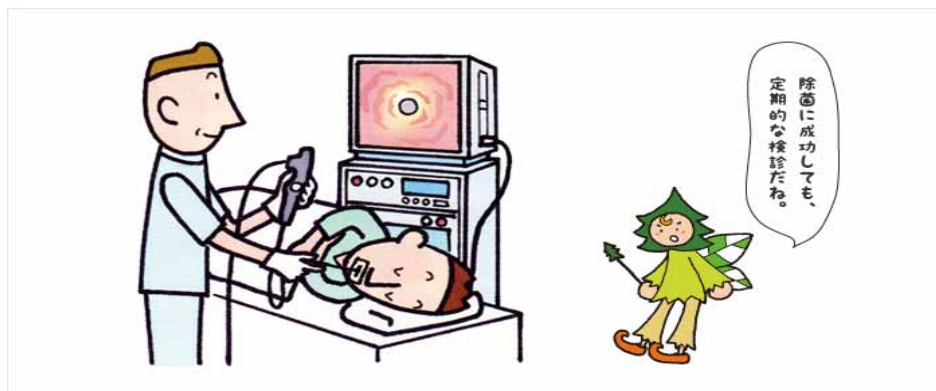


- 直ちに薬の服用を中止して、主治医または薬剤師に連絡してください

- **軟便、軽い下痢または味覚異常の場合**
- 自分の判断で、服用する量や回数を減らしたりせずに、最後まで(7日間)残りの薬の服用を続けてください。  
ただし、服用を続けているうちに下痢や味覚異常がひどくなった場合には、我慢せず、主治医または薬剤師1515に相談してください。



## 除菌治療が成功しても...



ピロリ菌の除菌療法が成功すると、ピロリ菌が関係している様々な病気のリスクは下がりますが、ゼロにはなりません。

除菌後もきちんと医師と相談の上、定期的な検査を続けましょう。